

直川小学校・直川中学校では、学校運営協議会における熟議の充実のために、話し合いの形態を工夫することで、多く意見や考えを出やすく、関係者の当事者意識の向上が図れるとともに、相互に連携した教育活動が実施されている

背景・取組概要

佐伯市立直川小学校・直川中学校では、学校運営協議会における熟議の充実のために、話し合いのグループを4グループ（4～5人）に編成し、話し合いの活性化を図り、「熟議記録用紙」を活用して話し合いのテーマを設定し、学校・家庭・地域がそれぞれが行うことを記録できる工夫が行われている

工夫・ポイント

- ◆ 編成されたグループには、学校関係者をコーディネーターとして1名配置し、テーマを設定して意見交流を行うようにしている
- ◆ 話し合われた意見は、全体で交流し、学校・家庭・地域が今後の活動に活かすように共有する
- ◆ 「熟議記録用紙」を活用し、話し合った内容を記録すると同時に、見える化が図られる

特徴的な活動

- ◆ 学校の教育目標や学校経営ビジョンの説明に終始するのではなく、学校・家庭・地域の課題に即したテーマを設定し、話し合いの焦点化が図られ、活発な意見交流が実現できている
- ◆ 学校・家庭・地域が今後取り組むべきこと、改善すべきことが明確になっている

関係者の声

- （学校）「学校が気づいていなかったことや活動する際の工夫するべき点が明確になった」「今後は、家庭や地域の声を具現化することが重要となる」
- （地域）「より一層の活動の充実（今、学校で何が必要か）に向けて、地域無線を活用した広報活動の工夫ができないかという考えを提示できた」
- （家庭）「保護者（大人）としての姿を見せることや子どもの学習・生活環境を整える必要がある」



小グループでの話し合いの様子



各グループの話し合いの内容を共有

第1回 直川地区学校運営協議会 熟議 記録用紙
令和4年 5月10日

テーマ
「直川地区の子どもたちの学力を高めていくためにできることは何だろうか？」
～「地域」「家庭」「学校」の立場で考えてみませんか～

*大きなテーマですが、それぞれの立場で、どう直川の子どもたちに関わるのができそうですか？
*無理をしなくて、できることから始めてみませんか？
*小グループで意見を交換します。各グループにコーディネーターとして職員が加わります。

直川地区の子どもたちの学力を高めていくためにできることは何だろうか？	
地域	
家庭	
学校	
グループのまとめ	

各グループごとの意見をまとめ、参加者で共有します